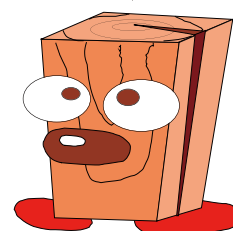


特集



顔の見える木材での家づくり

山林所有者、素材生産業者、森林組合、木材加工業者、設計士、大工・工務店など川上と川下の関係者が一体となり、地域材を活用して、消費者の納得する家づくりを行う「顔の見える木材での家づくり」の取組が広がっています。昨年12月には、「顔の見える木材での家づくり」30選」と題し、消費者に推奨できる家づくり活動を実践しているグループの募集が行なわれ、30グループが選ばれました。今回の特集では、その中から4グループの活動を紹介します。



見えるくん

「顔の見える木材での家づくり」30選」に選定されたグループ①

宮古・下閉伊モノづくりネットワーク林産部会（岩手）

Tel : 0193-64-2215 <http://forest.mono385.net/>

木材の見せ方を工夫して
温もりが感じられる家づくり

岩手県の宮古・下閉伊地域は、三陸海岸に面した県東部のほぼ中央に位置しており、森林率は九二%と県内で最も高い地域です。

合板工場、集成材工場、プレカット工場、家具メーカー等木材を利用する多様な加工施設が立地するなど、住宅建築に必要な部材のほとんどが賄える地域となっており、一部の設計・建築業者では、住宅建築において地域材を積極的に活用する動きが出ています。そこで川上から川下までの林業・木材産業に関わる事業者が会員となっている宮古・下閉伊モノづくりネットワーク林産部会では、地域の自

然を守りながら、住宅への地域材利用を持続・拡大させ、これを資源として循環利用できるように、地域で生産される木材・木製品を八割以上かつ一〇㎡以上使用すること、木材の見せ方を工夫して木の温もりが感じられることなどを条件とした「みやこ型住宅」の推進に取り組んでいます。

「みやこ型住宅」は施主の方に木のぬくもりを肌で感じてもらいたいということで、梁、腰板、床などでムク材を使用しているほか、クロスや天井を張らずに「あらわし」をふんだんに取り入れた家づくりを行っています。また、宮古・下閉伊地域は土地柄、日が長いので、日差しを十分に取り入れることができる気候風土にあった家づくりを行っています。



みやこ型住宅の外観



みやこ型住宅の内観

北信濃の森と匠を活かす家づくり研究会（長野）

Tel : 026-214-3077 <http://www.mori-takumi.net>

伝統的な大工技能の継承と
現代的なデザインの融合

「森を活かす」Ⅱ「信州の木材を活かした地産地消の家づくり」、「匠を活かす」Ⅱ「伝統的な大工技能の継承と現代的なデザインの融合」というテーマが、当研究会の基本理念です。

「森を活かす」は、地場産木材を積極的に利用することを通じて、森林の整備・保全と木材利用を円滑にサイクル（循環）させていくことが基本となります。しかし単に地場産木材を使うだけでなく、最終的な利用者である施主への理解を深めていただくため、住宅相談会や森林セミナー、木材の伐出・製材・乾燥現場の見学会を実施しています。他方で、プレハブやプレキャスト部材といった効率重視の家づくりが主流となっている昨



大工職人たちによる建方



製材所見学会

今、技量や長年の経験に依るところが大きい伝統的な職人技術Ⅱ「匠の技術」が急速に廃れてきています。「匠を活かす」とは、こうした伝統的な職人技術の家づくりにおいて絶やしてはならないという思いが基本となっています。そこで本研究会では、もう一方の「匠」である「建築家」のきめ細やかな「設計力」を最大限に活かすことで、大工職人たちの丁寧な手仕事による家づくりを支えています。

本来、住宅は、一律のモデルプランによってできる商品を買ったのではなく、施主のライフスタイル、長期的なライフプラン、敷地の成り（状況）を十分に検討して「つくる」ものであるはず。そんな思いを込めながら、当研究会では施主と地域のためのオリジナル住宅を造っています。

“「顔の見える木材での家づくり」 30 選” に選定されたグループ②



職人集団による建築風景



木組みは温かな空間を提供

越後にいきる家をつくる会（新潟）

Tel : 025-262-2320 <http://www.echigonoie.com>

職人集団が手掛ける 一〇〇年もつ住宅

越後にいきる家をつくる会の会長は斑鳩建築（大工集団）と二人三脚で一〇〇年後に二一世紀の証となる民家を造り続けています。二〇〇一年に竣工した「こまきさ保育園」はその代表作です。材料の使い方、組み方は、地元の木造に関わる人々を感動させました。その輪を県内に広げたいと、保育園建築にかかわった設計者、木材を提供した森林組合、製材、大工等職人集団を中心に当会を誕生させました。

地球環境の恩恵である木材を単に利潤追求の手段として扱ってしまうこれまでの価値観から、共生の価値観に転換する時代を迎えています。日本の伝統的な木造住宅の生産システムは、二一世紀の循環型思想と技術を兼ね備えています。それは日本列島には数多くの樹木が生育しており、縄文の時代からこれら多くの種類の木を知り、活用した世界に誇る「ともに活かし合う木の文化」を持っているからです。越後では、この思想と技能が、地域の木造住宅を作り出す職人集団に、辛うじて継承され生きています。

一〇〇年に一度の大震災が新潟県に二度も起きました。金物補強をせず、木で組む独自の標準仕様の住宅がこの試練を受け、何の被害も受けず見事に乗り越えました。「二〇〇年もつ住宅」の確かさをここでも実証したことになります。当会の理念は発足以来、草の根的に浸透し、支持を広げています。

諸塚村産直住宅推進室（宮崎）

Tel : 0982-65-1116 <http://www.vill.morotsuka.miyazaki.jp>

家づくりから始まる 関係を大事にした取組

諸塚村産直住宅推進室は、諸塚村と森林組合及びその経営する木材加工センター、森林作業会社の（財）ウッドピア諸塚との共同プロジェクトであり、村土の九五％を山林が占める九州山脈の中央の村から、都市に発信する顔の見える木材での家づくり事業を行っています。

諸塚村方式産直住宅のスタンスは、環境にやさしいことが第一です。自分のことだけでなくお互いのことを、現在のことだけでなくでなく子や孫の代のことを考えて、美しい森の資源を壊さずに守る村づくり運動を展開しています。第二に、地域にあるものを生かした家づくりを実践することです。他所からの資材を

使うことはやめ、地域資源を生かす家づくりを評価します。第三に、一過性でなく、継続していくことを大事にします。平成一六年には国際認証であるFSC森林認証を取得しています。また、森林からユーザーにわたるまでの生産・加工・流通過程で分類表示し、工程過程管理システムであるCOC認証も取得しています。COC認証によって製品にエコーベルといわれるロゴマークを貼って、ユーザーが生産者の顔の見える安全な商品を選択して購入することが出来ます。安心と信頼が得られる流通が可能となり、それが生産者の自信になります。家を建てて終わる関係ではなく、家づくりから始まる関係を大事にした取組を行っています。



諸塚村方式産直住宅



同上

5,6 ページ以外の「顔の見える木材での家づくり」30 選”選定グループ紹介①

●群馬西毛の家協同組合（群馬）

Tel : 0274-74-7315 <http://www.seimounoie.jp>

西毛地域の住宅設計事務所・プレカット工場・施工会社などのメンバーが連携。産地直送の自然素材を適材適所で使い、耐久性や耐震性、断熱性の高い「人と環境にやさしい健康的な家づくり」を推進。使用される木材を確かめることができる「木材センター」を開設。

●八溝杉の家づくり協同組合（栃木）

Tel : 0287-84-0270 <http://www15.ocn.ne.jp/~yamizo>

本物の木の家を多くの人たちに提供するため様々な取組を実施。樹齢 60 年以上の地域材を自然乾燥させ、節の有無や反り・割れ・色味などにとらわれず、構造上強度が十分と認められるものは、木の扱いを熟知している職人集団が無駄なく使用します。

●家造りを考える会（栃木）

Tel : 0282-27-9217 <http://www.cc9.ne.jp/~ishimoto-k/>

建主、大工、設計師、材木屋と一緒に勉強し、無垢材を使った家造りを進めていく会。栃木県南部三轟山の周辺から産出される「みかも材」を中心に地産地消、自然素材の家造りをしています。その啓蒙運動のため、会報誌を発行したり、木工教室や住宅見学会などを開催。

●日光地区木材流通研究会（栃木）

Tel : 0289-82-3007 <http://www008.upp.so-net.ne.jp/moku/top.htm>

日光地区林業地帯の林業家、原木市場、木材業という一貫した国産材を扱う者が集まり、地域林業の活性化につなげることを目的に設立。大黒柱や大梁となる丸太を建主が自ら選別、伐倒した木の枝を持ち帰り挿し木して育て、苗木を自らの手で山へ戻すという林業体験も実施。

●八溝の家づくりグループ（茨城）

Tel : 029-227-1040 <http://www.kk-tosho.co.jp>

茨城県で採れる良質な八溝材を住宅や住宅資材、家具等の形で提供することにより、八溝材を多くの方に利用してもらえるよう、その普及活動を実施。八溝材は安定的に確保でき、グループ内で製材やプレカット加工を行い、新築やリフォームでの材料として使用。

●特定非営利活動法人木の家だいすきの会（埼玉）

Tel : 04-2926-6045 <http://www.kinoie.org>

奥武蔵の森の木を使って木の家をつくることで、地域の森の保全を図ることを狙いとして設立。森林ツアーやお住まいの訪問などを通じて木の家を肌で感じることができます。コーディネーターが住まいの相談にのり、設計者や工務店探しのお手伝いもしています。

●特定非営利活動法人ちばの山を愛する家造りネット（千葉）

Tel : 043-291-0586 <http://www.chibayama.ne.jp>

林業家、製材所、設計士、工務店、一般ユーザーなどをつなぐ顔の見える家造りサイクル（供給体制）を構築しています。県産材住宅の企画、木材生産合理化のための木材規格化、勉強会や山の体験イベント実施、千葉県産材住宅の広報などに力を注いでいます。

●さんむフォレスト（千葉）

Tel : 0475-52-7510 <http://www.sanmu-forest.com/>

地産地消の住まいづくりを提唱するグループで、千葉県のサンプスギと地元技能者の伝統的工法によって健康的で高耐久な住まいを造っています。重力換気によってエアコンなしの暮らしを可能にし、環境と共生する暮らし方を可能にする住まいの提案しています。

●ワークショップ「き」組（東京）

Tel : 03-3951-0703 <http://www.kigumi.jp>

「無垢の木の家に住みたい」と考える住まい手に、手の届く価格でよい家を提供したいという思いから設立。材木の規格寸法による木組の架構を計画することで、天然乾燥材が手に入りやすく、伝統構法の木組の家をつくることで日本古来の伝統技術を継承しています。

●青ヒバの会（東京）

Tel : 03-3779-0608 <http://www.aohiba.net>

活動は国有林から産出する青森ヒバ材の普及活動と建築家主導の良質な住まいづくり運動が一緒になって始まりました。抗菌性を持つ青森ヒバを使用しながら、しっかりとした基本理念をもって大都市圏での伝統講法の家づくりを行っています。

●協同組合 匠の会（東京）

Tel : 03-6228-4500 <http://www.takumi.or.jp/>

12 年前より産直の紀州構造材、その中でも樹齢 60 年以上の構造材を使った“樹の家”は匠の会の特徴的なものです。木造の構造などをきちんと計算をすることによって安全な構造となっています。内装でも国産材の無垢材を利用した床などで仕上げています。

●山梨の木で家をつくる会（山梨）

Tel : 055-284-8888 <http://www.shingetsu-y.com>（※ 3 月中旬以降変更予定）

山梨を愛する建築家（山梨 ACD 建築設計協同組合）の呼びかけに、山側（素材生産）のやまなし木材ネットワークと、製材・加工側の山梨県木材製品流通センター協同組合が賛同して発足。地域の設計士、工務店、木工関係者、一般ユーザーが加わって活動を展開しています。

●協同組合 山梨県産材健康住宅研究会（山梨）

Tel : 055-251-8595 http://www.geocities.jp/vernacular_alps/

県産材を活用し、健康にも環境にも配慮した住まいを普及させたいという思いが立ち上げの原動力となりました。地元の小さな建築関連専門業者で異業種の協同組合を組織し、組織自体の維持に費用をかけず、県産材による健康住宅を広げていこうと取り組んでいます。

5、6 ページ以外の「顔の見える木材での家づくり」30 選”選定グループ紹介②

●「信州の家は信州の木で工房信州の家づくり」グループ（長野）

Tel：0265-72-2631 <http://www.kobo-shinsyu.com>

長野県産材を使用した「工房信州の家」の建築に当たり、安定的供給ルートを確立するために、「川上（山地主等）から川下（建設会社・建具屋等）まで」のネットワークの構築と、長野県産材の需要拡大を図ることを目的に平成 15 年に結成をしました。

●協同組合上之保デカ木住宅センター（岐阜）

Tel：0575-47-2667 <http://www.dekamoku.co.jp>

国産・県産材 100%のデッキ材料を使用して、骨太で頑丈な「デカ木住宅」を造っています。デカ木住宅の構造については、構成員の 12 社（※全員が山林所有者）共通の標準構造特記仕様書により建築しています。今までに 2,000 棟余施工しています。

●木の家をつくる会（和歌山）

Tel：073-423-1915 <http://www.kinoienet.com>

メンバーがそれぞれに設計事務所・施工会社・大工・製材所・銘木・建具など、独立して会社を運営し、自社の設計施工では行えない各工程での厳しいチェックをそれぞれが責任をもって行い、常に質の向上を考えながら設計基準・施工基準・販売基準を行っています。

●龍神住宅株式会社（和歌山）

Tel：0739-78-0743 <http://www.ryujin-j.com>

設立以来 20 年余、商圏を近畿一円とし、“木材需要の拡大（龍神材の使用）・大工、左官等建築作業従事者の仕事の確保・大工職の後継者確保育成・木質住環境の心理面、生理面での優秀性を P R すること”を念頭において在来木造住宅建築を主に事業に励んでいます。

●ひょうご木のすまい協議会（兵庫）

Tel：0798-39-1102 <http://www.hyogo-kinosumai.com>

地元兵庫県産木材の販売促進を目的として活動しています。エンドユーザーを対象に木材の伐採現場～製材工場～構造材のプレカットならびに造作材の加工工場を見てもらい、ムクの杉・ヒノキで家を建てる工程を学ぶ産地見学会を年 2 回開催しています。

●住環境システム協同組合（兵庫）

Tel：079-664-0297 <http://jukankyosystem.dreamblog.jp/>

「家族が暮らす家」との原点を取り戻そうと、「いい家」の建築を目指す工務店を中心として森林育成、製材、プレカット、資材販売の各社が集まって組合を設立しました。杉・桧・松の産地として但馬、丹波、播磨があり、その三地域が協力し活動しています。

●住まいづくりの会（岡山）

Tel：086-214-5323 <http://ww3.tiki.ne.jp/~land>

住まい手と設計者との出会いの場をつくり、住文化の質の向上を目的に発足しました。会を運営する設計者メンバーは、これまで岡山市郊外（岡山市足守地区）で街並み保存の調査・計画に携わった 4 人の建築士で、それぞれ市内で設計事務所を開設しています。

●安成工務店・エコビルド・トライウッド 山とまち連携グループ（山口）

Tel：083-252-2478 <http://www.yasunari-komuten.com>

家づくりを担う安成工務店と森林保全・製材を行うトライ・ウッドが、地域材を使った産直型の家づくりを平成 8 年から協働して行っています。山の現状、植林、伐採、製材をユーザーに体感していただく「森林体験ツアー」を年 2 回開催しています。

●嶺北材ブランド化協議会（高知）

Tel：0887-82-1237 <http://reihoku-skeleton.com>

木材山地主導のグループで、木材製品の寸法を住宅の使用ごとに規定した「れいほく規格材」を平成 18 年に開発しました。「れいほくスケルトン」と呼ばれる木造基本構造体のキット商品により、手軽に本格的なスギ材による木造住宅の建築を可能にしました。

●土佐の木の家づくり協議会（高知）

Tel：0889-20-0280 <http://www.ask21.co.jp>

“木・土佐和紙・土佐漆喰”を使った家づくりを提案し、これらの資材をトータルサポートする体制を整え、自然素材を利用した木造住宅を提案しています。森林・林業や製材工場などを見学するバスツアーを開催し、木造住宅を推進する活動にも取り組んでいます。

●熊本の山の木で家をつくる会（熊本）

Tel：096-357-0973 <http://kumamotonoki.hp.infoseek.co.jp>

伝統構法を採用し、新建材や石油製品をしようしない、軒・ひさを長くするなどしっかりとした家づくりの基本方針を掲げている設計事務所主体の会です。できるだけ木を表に出し、木の性質を理解した大工の手仕事による伝統構法による家づくりを行っています。

●熊本の杉・天然乾燥研究会（熊本）

Tel：096-356-1500 <http://www.shinsan.com>

天然乾燥の森林認証材（100%国産材）を活かした無垢材の梁や桁などが見える真壁式工法をできるだけ多く取り入れ、揮発性有機化合物の少ない素材などを使用し、台風や地震に強く、住む人と環境に優しい住まいづくりを実践しています。

●「生地の家」職人' ネットワーク（熊本）

Tel：096-368-7125 <http://www.kijinoie.lifeware-design.jp/kijinoie/kijinoie.html>

健康と環境に配慮し、木材や漆喰、珪藻土などを多用した自然素材（※木材は原則として宮崎県諸塚村などの森林認証材を使用）の調湿効果の高い深呼吸できる住まいづくりを行っています。他地域（熊本及び耳川）と連携をとった活動も活発です。